

第16回腎臓リハビリテーション学会学術集会報告

第16回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会

大会長 深水 圭

久留米大学医学部内科学講座 腎臓内科部門 主任教授

2026年3月15日(土)から16日(日)にかけて、第16回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会を、福岡県久留米市の久留米シティプラザにて開催いたしました。

本学会は、腎臓リハビリテーションガイドライン改訂の時期と重なり、また透析時運動指導等加算の算定開始から4年が経過した節目でもあったことから、「腎臓リハビリテーションの有効性を検証する学会」と位置づけ、テーマを「一歩ずつ、明日への健康を築く～腎臓リハビリテーションの力～」といたしました。

本学術集会では、血液透析患者におけるリハビリテーションの有効性を検証するとともに、透析導入回避を目指した保存期CKD患者にも焦点を当て、腎臓リハビリテーションの力がどのように明日への健康を築くのかについて議論を深めました。プログラムは、招請講演5セッション、学術委員会企画2セッション、シンポジウム7セッション、ジョイントシン

ポジウム11セッション、よくわかるシリーズ15セッション、教育講演12セッション、インタラクティブワークショップ2セッション、ハンズオンセミナー1セッション、多職種連携セッション1セッションで構成し、医師のみならず、看護師、理学療法士、保健師、管理栄養士、薬剤師など、多職種の皆様に活発にご参加いただきました。

また、300題を超える一般演題の応募に加え、日本音楽療法学会、新百合ヶ丘病院音楽部、久留米大学医学部管弦楽部、久留米音協合唱団とのコラボレーションも実現し、音楽の重要性についても感じていただけたのではないかと考えております。参加者数も1,300名を超え、主催者として大きな安堵とともに深い喜びを感じております。

ご多用の中、ご登壇・ご発表・ご座長をお務めいただいた先生方、運営を支えてくださったスタッフの皆様、そして何より本学会を支えてくれた教室員の皆様に、心より厚く御礼申し上げます。

